

ポンプ車の更新について（3.5 t 未満型検討結果）



	西東京市導入型	3.5t未満型	現行型との比較
全長	5640mm	5135mm	-505mm
全幅	1880mm	1850mm	-30mm
全高	2600mm	2280mm	-320mm
WB	2750mm	2545mm	-205mm
OH	1600mm	1630mm	+30mm
最小回転半径	5.7m	4.8m	-1.1m
乗車人員	10人	6人	-4人

【メリット】

- ・普通免許（3.5 t 未満）での運行が可能
- ・狭隘な道路での通行性が向上

【デメリット】

- ・PTO接続時の手順が複雑となる。
- ・オーバーハングと最小回転半径の関係から、右左折時にオーバーハングの張り出しが大きくなる。
- ・ポンプ水圧が低いため、操法大会で送水が1～2秒遅くなる。
- ・車両後部に乗車スペースを設けることは不可
- ・軽量化のため素材が高価となり、車両価格は同程度

【PTO接続手順】

«事前準備»

- ①停車
- ②シフトレバーP
- ③パーキング
ブレーキを引く

1 e モニタースイッチ押下

- ①緑点灯→赤点灯

2 ブレーキを踏みながら

Pブレーキスイッチ押下

- ②緑点灯→赤点灯

3 シフトレバーをNに入れる

- ③緑点灯→赤点灯

4 パーキングブレーキを下す

- ④緑点灯→赤点灯

※警告音あり

5 ブレーキを踏みながら

PTOスイッチを押下

- ⑤緑点灯→緑赤点滅→赤点灯

※赤点灯を確認するまで次には進まない

6 シフトレバーをDに入れる

- ⑥緑点灯→赤点灯

※PTOが切り替わりエンジンの回転
が上がる

※下車時、パーキングブレーキは下
げたままにする

«ポンプ車の運用面について»

3.5 t 未満型を視察した結果、左記の
PTO接続手順が現行型に対し非常に複雑であり、現行車両と大きく異なる。

ポンプ車の更新について（3.5t未満型検討結果）

«免許区分について»

過去5年の新入団員52名 平均年齢40.5歳 普通免許6名 免許なし2名 他は準中型5t以上を所有
免許制度の改正平成29年 新入団員全員が普通免許取得者になるのは おおよそ令和21年頃と予想。

免許区分は課題だが、時間的な猶予がある。

«準中型免許取得助成について»

令和7年度より、西東京市消防団準中型免許取得費用助成金交付要綱が定められた。
全団員218名中、普通免許9名、うち1名が準中型免許を取得予定。来年度も1名分の予算を要求している。

«資機材の積載について»

3.5t未満ポンプ車は車体の軽量化により3.5t未満とし、車両サイズを現行型に近づけている。そのため現行車と同じ感覚で資機材を積載すると過積載となる可能性があり、積載量に注意が必要である。

現行型と同じ量の資機材は積載できない。

«3.5t未満ポンプ車について»

現状、3.5t未満ポンプ車はモリタのみが製造している状況であるが、今後他社の3.5t未満ポンプ車が発売されれば、新技術の開発やコストダウンが期待できる。

今後の動向を注視する。

【メリット】

- ・普通免許（3.5t未満）での運行が可能
- ・狭隘な道路での通行性が向上
- ・ポンプ性能は現行型と同じ

【デメリット】

- ・PTO接続時の手順が複雑となる。
- ・資機材の積載量に注意が必要
- ・軽量化のため素材が高価となり、車両価格は同程度

«更新車両について»

検討の結果、現状の3.5t未満ポンプ車はPTO接続手順や積載量などポンプ車運用面での課題が多い。また、運転免許区分については、課題ではあるが時間的な猶予もあることから、来年度からのポンプ車更新は現行型のポンプ車とします。